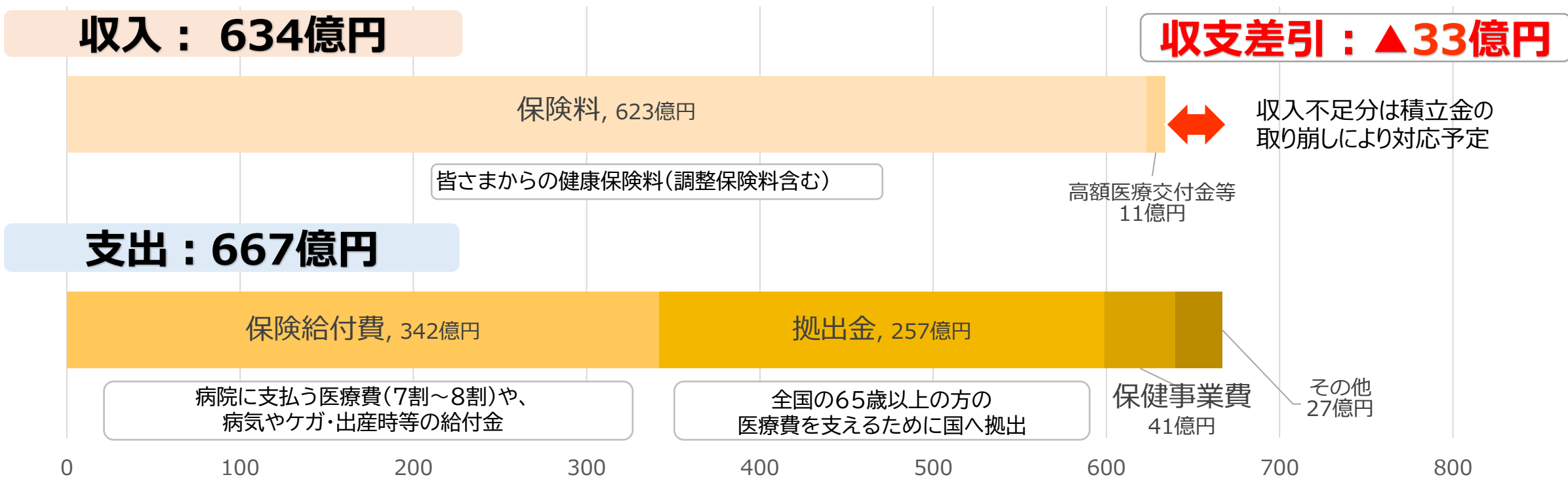


2025年度 富士通健康保険組合 予算について

～ 保険給付費、拠出金の支出が引き続き高く、赤字予算 ～

健康保険

2025年度予算について、2月開催の組合会にて承認されました。保険料率は88%を維持します。収入は634億円、支出は667億円、収支差引は▲33億円の予算としています。収入不足の場合は、積立金(別途積立金)の取り崩しで対応いたします。



保険料収入について

健康保険料収入(調整保険料収入含む)は、加入事業所の脱退等で被保険者数の減少を見込み、前年差▲3億円の623億円としています。

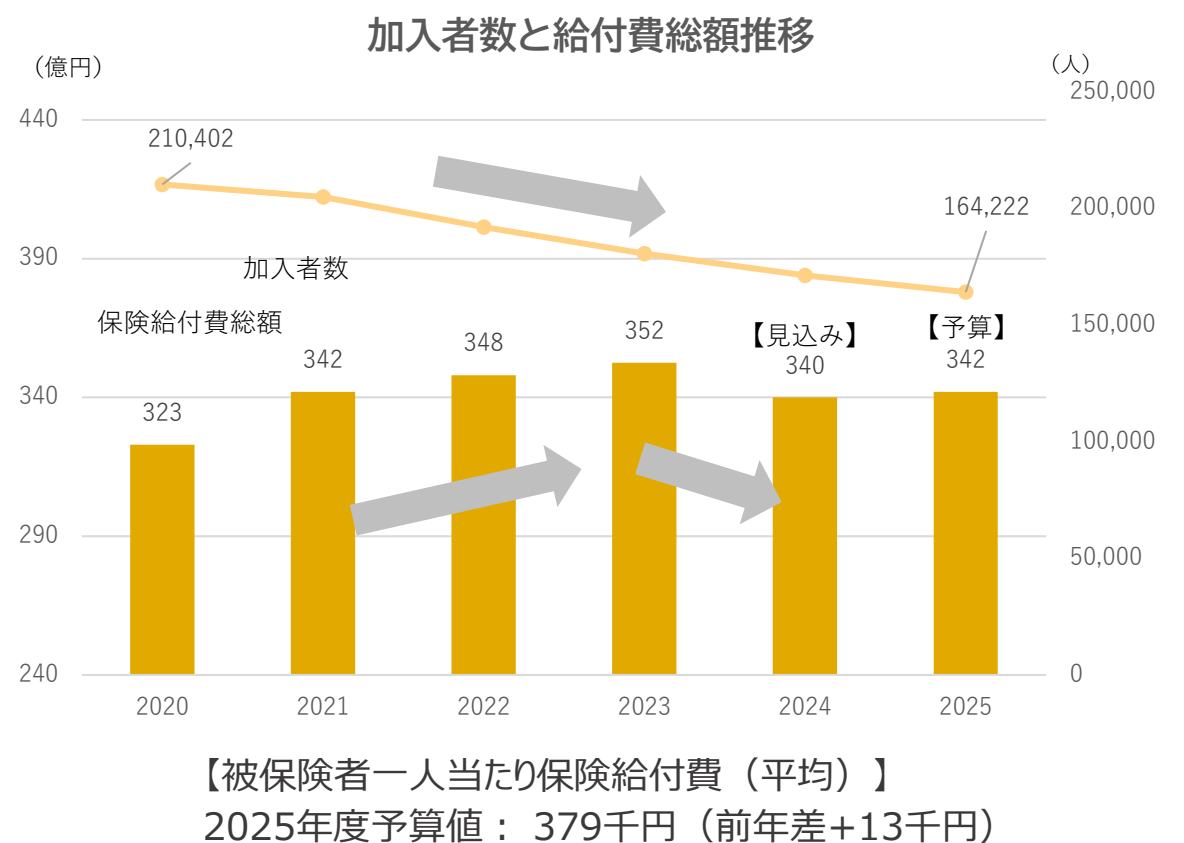
保険給付費について

保険給付費総額は、2020年度以降増加していましたが、2024年度に入り、コロナウイルス関連の医療費が減少傾向にあり一定程度抑制される予測としています。(右グラフご参照)

ただし、近年、医療の高度化や高額薬剤の保険適用等により高額なレセプトの件数が増加傾向にあること、また、感染症流行の見通しが難しい等により、予算は微増の342億円(前年差+2億円)としています。

拠出金について

日本の高齢者にかかる医療費を支えるため、法律で拠出が義務づけられており、支出の約4割を占めます。給与明細では特定保険料として控除され、保険者(健保)を通して国に支払われます。大きく2つの拠出金があります。



【前期高齢者納付金】 予算額：95億円

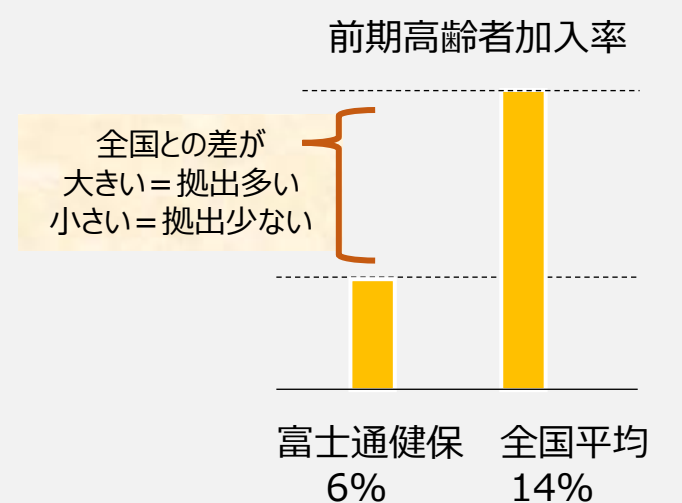
国民健康保険に多く加入している65歳から74歳の前期高齢者の医療費を支えるための拠出。各保険者の前期高齢者加入率等に応じて拠出額が計算されます。2024年度より、総報酬割(※1)が部分的(1/3)に導入され、比較的報酬の高い富士通健保では支出が増加しています。

【後期高齢者支援金】 予算額：162億円

全国の75歳以上の後期高齢者の医療費を支えるための拠出です。自健保の総報酬額(※2)×負担率(国から提示)で計算されます。

※1加入している被保険者の報酬総額の多寡に応じて負担する「応能負担」の考えに基づく仕組み

※2加入している被保険者の報酬総額



■介護保険

2025年度介護保険料率は、介護納付金額が前年度より減少する見込みであるため、前年度の17.6‰から15.0‰へ改定いたします。

収入(保険料等)は73億円、支出(介護納付金等)は70億円、収支は+3億円の予算とし、余剰金については、今後の納付金増加等に備え、介護準備金(法定の積立金)へ積み増しする予定です。

富士通健康保険組合では、今後も保険給付費、拠出金等の動向を注視するとともに、健保財政の安定的な運営に努めます。また、各種保健事業を行っていますので、みなさまご自身とご家族の健康増進にぜひお役立てください。

詳細は健保HPをご覧ください <https://kenpo.jp.fujitsu.com/index.html>